外 国 語 科

榎原　朱梨／森澤　葉子／小林　梨紘乃

１　はじめに

東雲小・中学校は，中学校卒業時に教科等でめざす子ども像を設定し，令和元年度より「教科等本来の魅力と学びのつながり」を中心に，「『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を育むための学びを豊かにする授業の創造」という主題の下，教育研究を進めてきた。外国語科では，目指す子ども像を「目的・場面・状況に応じて，英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ることができる子ども」と設定している。また，資質・能力の育成に関わって，学習者の主体性や協働性，多様性を育むことを重視し，学習方法論の一つとして協働的問題解決を学習過程に取り入れるなど，学びを豊かにする授業づくりの開発に取り組んできた。一方で，協働的問題解決学習の様な単一の方法論のみで，前述の資質・能力を充分に開発することは困難であることも次第に明らかになり，方法論に加え，その過程や授業実践の際の具体的配慮など，様々な工夫が必要であることも分かった。そこで，今までの研究も踏まえつつ，教科等本来の魅力に迫る授業を行うにあたって求められる外国語科の教員の資質・能力について，本年度より研究を進めていきたい。

２　本校外国語科における教科等本来の魅力

外国語科（外国語活動）の学習指導要領では，児童生徒の発達段階に応じて少しずつ表現を変えているものの，「コミュニーションを図る（基礎となる・素地となる）資質・能力を育成すること」を目指している。このことを踏まえると，外国語科における教科等本来の魅力は，英語の言語運用能力を獲得し，コミュニケーションを図ることができるようになることである。情報化に伴い，あらゆる情報に自ら触れることが容易な現在において，英語という世界で広く使用される言語運用能力を獲得していることは，多様な媒体の情報を自分のものとして獲得していくときに，日本語で発信されたものだけに限らないさまざまな情報を得るとともに，取捨選択しながら生きていく力を身に付けることにつながる。また，英語を学ぶことは，無意識的に学習していた第一言語である日本語を客観的に見る機会になり，そのことが母語をも含めた言葉によるコミュニケーション能力の向上に影響を与えると考えられる。英語によるコミュニケーション能力を育成することは，児童生徒の社会や世界，他者を多角的に見る態度の育成に寄与するといえるだろう。しかしながら，児童生徒がこういった外国語科本来の魅力に迫るためには，教師は児童生徒の実態を見極め，言語活動を設定するなど，児童生徒に応じ，つくりかえ実践していかなければならない。教科等本来の魅力に迫る授業をつくり実現していくためには，授業者としての資質・能力が求められると言える。

３　本年度の研究

３．１　研究の目的

これまでの東雲小学校・中学校で追究してきた外国語科本来の魅力に迫る授業づくりの視点を明らかにし，外国語科教員の資質・能力を具体的に示すことを目的とする。

３．２　研究の方法

本研究では，本校が作成した「教科等本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」のカテゴリーに基づき，これまでの先行研究等を踏まえ，「外国語科本来の魅力に迫るための教員の資質・能力」を規定する。次に，小・中学校において教科等本来の魅力に迫る「話すこと」の領域での授業実践を行い，児童生徒の授業中の姿や振り返りシート等から授業を分析する。それらをもとに「外国語科本来の魅力に迫る教員の資質・能力（試案）」の妥当性を吟味し，加筆・修正を行う。

４　外国語科教員に求められる資質・能力

４．１　本校における外国語科教員の資質・能力の捉え

英語科教員特有の資質能力として石田ら（2011）は「能力試験で測れる英語力」「英語教授に関する知識・国際理解教育に関する知識と教養」「授業で求められる資質・能力」をあげている。そのうち「能力試験で測れる英語力」と「英語教授・国際理解教育に関する知識と教養」については，授業には直接は結びつかないが，「授業で求められる資質・能力」を支える資質・能力であると述べている。また，卯城（2021）も，英語科教員に求められる専門性として（１）資格試験で測れる英語力だけでなく，指導者としての英語力も含めた「英語力」（２）英語科の授業を計画・実施・評価するという「英語科授業実践力」（３）英語そのものや異文化理解などといった「英語に関する専門的知識」の３つを挙げている。英語力については，卯城らも指摘しているように，資格試験で測られている英語力，つまり一般的な英語力以外にも，授業を行うにあたって児童生徒の実態に即した英語力も求められ，授業で求められる資質・能力の一つと考える。

以上のことを踏まえ，本校では「一般的な英語力」「授業で求められる資質・能力」「英語教授・異文化に関する知識や教養」の３つを外国語科教員に求められる資質・能力と捉える。なお，「一般的な英語力」と「英語教授・異文化等に関する知識や教養」は授業に直接に関わるものではなく，「授業で求められる資質・能力」を下支えするものと考え，以降は「授業で求められる資質・能力」に焦点を当てて検討する。

４．２　外国語科本来魅力に迫る教員の資質・能力

外国語科本来の魅力に迫る授業づくりに求められる教員の資質・能力を表１のようにまとめた。児童生徒が英語でのコミュニケーションに主体的に取り組み，思考・判断・表現することを支える教員の資質・能力が求められると考える。

表１　外国語科本来の魅力に迫る教員の資質・能力（試案）

資質・能力	視点	具体
授業構想力	目標設定	・児童や生徒の興味や関心を引き出すような目標の設定
	教材研究（開発）	・児童や生徒の実態に合わせ，コミュニケーションの目的・場面・状況を意識した言語活動の設定
授業実践力	指導技術	・児童生徒の実態を考慮した英語使用 ・英語を用いてコミュニケーションを図るロールモデルとしての立ち振る舞い ・安心してコミュニケーションを図れる雰囲気づくり ・児童生徒の発話を引き出すような英語での問いかけ ・効果的な誤り訂正
授業分析・評価力	授業分析評価	・児童生徒の授業中の姿や振り返り等に基づく省察や授業の改善 ・ルーブリックや振り返り等に基づいた形成的評価の実施

【引用・参考文献】

石田雅近・神保尚武・久村研・酒井志延（2011）『英語教師の成長 - 求められる専門性』，大修館書店.

卯城祐司・樫葉みつ子（2021）『中等英語科教育』，協同出版.

金谷憲（1995）『英語教師論 - 英語教師の能力・役割を科学する』，河源社.

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説　外国語活動・外国語編』，開隆堂.